

## 序

IBMの江崎博士が、ある新聞に小論を連載しておられるが、その内二つのことをここに引用する。

ひとつは、日本社会とアメリカ社会の比較で、日本社会の中では、アメリカ社会に比べて、個人の独立精神が養われにくく、組織への順応あるいは甘えが育つ仕組みになっている。こういう所では創造的個性は現れにくいであろう、ということである。もうひとつは、裕福な西欧社会の中では今や、自己を磨き上げた傑出した人材は、出にくくなっているのではないか、そういう人材は何らかの逆境から生れるのではなからうかという話である。

この二つを合わせて考えると、生活が裕福な西欧並みになっている日本では、独創的な研究者も研究成果も現れるのが難しいという説明になる。

一方、わが国は資源問題等から、将来困難な条件下に置かれる可能性が予測され、それを打開すべき新しい技術開発の重要性が強調されている。しかしそのような状況下で、われわれはどのように挙動するであろうか。

組織への甘えが裏がえされて、組織への恨みや反発となるだけであるなら、見通しは暗いと言わねばならない。

困難を克服するための研究開発は勿論緊急を要し、それは日本自身の困難であるとするなら、独自の技術を創造しなければならない。しかしそのために、それより前に、困難に立ち向かって自らの力と責任で打開しようとする、独立した強い精神の開発の方が、もっと必要のように思うのである。

しかもそれは、困難の未だ到らざる前でなければならない。

1977年10月

清水建設株式会社研究所長

工学博士 烏田 専 右